

国保財政健全化のための プロジェクトチームを組む

問 国保の予算編成の考え方は。

答 医療費の抑制を重点に置き予算編成を行っている。医療費分析及びデータの活用を図る。

問 予算の分析といっても、迫真性がない。平成26年度予算額は前年比1億3000万円ふえたわけだが、それでも25年3月補正時点の19億6000万円に比べると1億5000万円も及ばない。なぜこんな小さな予算を立てるのか。

答 医療費の動向は流動的な要素が多いため見込みが難しいことや、基金等の残額もない。当初より一般会計からの繰入金にも限度額があるため、補正予算の対応となっている。

問 年度末に追加補正を繰り返していくと実態を反映しない予算をつくり続ける。だから国保会計を見直す気分が起らない。

答 今の鳩山町の著しい高齢化は医療費削減だけでは、効果はあるが難しい。来年度早々国保財政健全化のためのプロジェクトチームを組み、年次計画を立てて国保財政健全化に取り組みたい。

問 一般会計も含めた財政計画全般を見直す必要がある。

答 一般会計については、特殊要因があり、26年度、財政調整基金等からの繰入額が多くなった。27年度は、特殊要因がなくなる。基金の繰り入れなく予算編成をする決意で

問 臨む。

答 保険財政共同安定化事業交付金は10万円以上が対象だったが、26年度は5万円になる。目指している金額は。

問 27年度には全ての医療費に拡大される。年々正確にデータとして確保していく、それによって正確な当初予算の積み上げができていくのではないかと議論されている、さまざまな国保の制度、仕組みや保険税はどうあるべきなのか、根本的な議論をしていきたい。



国へ2件の意見書を提出しました!

集団的自衛権行使を容認する解釈改憲を行わないことを求める意見書

提出者 野田小百合
賛成者 小峰 文夫
賛成者 日坂 和久

特定秘密保護法の撤廃を求める意見書

提出者 根岸富一郎
賛成者 石井 計次
賛成者 野田小百合

〈反対討論〉

国家安全保障に係る秘密の漏えいを防ぐのがこの法律の目的であり、機密性の高い特定秘密を保護するのが狙いである。戦争の時代に戻るといってもではなく、安全保障上の備えをしたのにすぎない。国民・領土・国益を守るための法律である。

(小川)

〈賛成討論〉

情報の適切な管理と公開の徹底、国会による監視機能の徹底こそが民主国家の基本である。国民の知る権利を侵し、言論の自由、取材・報道の自由を脅かす。個人のプライバシーを侵害する。この法律は憲法の精神に反するものである。

(野田)

〈反対討論〉

集団的自衛権行使の解釈などを見直し国民の生命と安全を守るのである。周辺国との戦争を避けるために世界の常識に沿った防衛力の整備をすることが重要である。

(小川)

〈賛成討論〉

集団的自衛権の行使が認められるならば、特別措置法で規定された歯どめも取り払われることになる。戦後、平和憲法のもつて歩んできた国のあり方を根本から変える集団的自衛権の行使容認は絶対に認められない。

(根岸)

〈賛成討論〉
集団的自衛権の行使は必要と考えるが、その行使の内容については国民的議論が必要である。行使容認については正面から憲法改正の議論によつ